

アスパラガスのカルテック施肥例 (ハウス栽培・収量2~4トン以上、10アール当り)

定植前の 地力作り (10年分 の基盤を 準備)	なるべく早く、深く耕 転しておきます。 最低限、定植迄に1ヶ月 以上おいて下さい。 ※畑の排水に注意。 有効土深40cm以上、 地下水位50cm以下 が必要です(最低限)	ラクトバチルス 1. 2kg 有機物・堆肥 20トン (なるべくカヤなどの植物質を多く) 硫安 100kg (有機物のCN比によって増減) 畑のカルシウム 100kg (~200kg) ※深層まで土壌が酸性にならないように、畑のカルシウムをしっかり投入 します。ただし、酸性中和は以後10年分の中和を一度にしておく訳で はなく、 現時点の土壌pHを6.0前後にしておく だけで、以降の施肥 を酸性化しないように行います。従って地力作り時に通常の石灰を20 0kgも投入して微生物を殺すような事はしないで下さい。 ※有機物が菌の活動で有効化するので、通常、肥料は硫安を、地力作り時 に加えるだけで充分です。もし堆肥の量が少なかったり、痩せ地で、N PK分の複合肥料を使う場合は、チッソ成分20kg程度とし、 地力作り時 に投入するか、定植までに20日以上の間をおいて下さい。 ※1ヶ月のうちに 土壌EC:0.2以下に落ち着き 、定植苗がよく発根す るような安定した土になります。
育苗 ・ 定植 (3~5月 ・10月)	播種床(培土)	なるべく本圃と同じ地力作りをしておく(N控えめ、Caはシッカリ)
	育苗中(2~3ヶ月)	濃縮酵素液 } 1000~500倍、葉上からタッブリ染込ませる カルテックCa液状 } 半月ごと、交互に
	定植7日前	カルテックCa液状 500倍 葉上から根元まで散布、苗の充実
	定植時	濃縮酵素液 500倍 ドブ漬けまたは灌水、発根の強化
1年目	灌水・葉面散布(半月ごと)	濃縮酵素液 1~3リットル、 カルテックCa液状 500倍
	追肥(7・8・9月)	硫安 20kg、 畑のカルシウム 20kg 同時施用(N過多にしない)
2年目 以降 ※収穫中、 灌水は少回 数でも、1 回の灌水 量を多くし、 土深くへ染 込ませる。 酵素液を加 用のこと。 (ただしラ クトバチル ス効果で排 水・通気が 良い畑であ ること)	秋、 茎葉の黄化 (11月のCa散布)	茎葉の蓄積養分が地下部へ転流し、茎葉が黄化します。この作用は夏から の カルシウムの効き によって促進されますが、いつまでも葉が青い(N過 多)なら、 カルテックCa液状 300倍の葉面散布 5日間隔。
	12月上旬~茎葉刈取り時 毎年の地力作り (萌芽までに 15日程 必 要です。もし刈取りが遅 れすぎたらラクトバチ ルスは投入せず、カルシ ウムだけは施用します) ※地力回復と地温上昇	完全黄化したら刈取りし、 原則として全て茎葉は畑に還元します。 この時、下記3つを散布し、ウネ土と軽く混ぜてウネを作り直します。 ラクトバチルス 600グラム 硫安 20kg (チッソ成分が多すぎる場合は米ヌカ15kg) 畑のカルシウム 40kg (~60kg) 土壌pHが酸性なら増量。 ※茎葉を 醗酵 させて地力回復。すぐに根に効かせるのではありません。 ラクトバチルスの作用で、根に障害なく、安全に醗酵・分解します。 ※よほど病虫害が激発した畑だけは茎葉を焼却し、かわりに堆肥500kg程 を投入します。 <根を切らないよう注意>
	12月末~萌芽開始迄	12/25以降 休眠打破、萌芽確認後、保温開始時に タッブリ灌水 。 濃縮酵素液 2リットルを加えて灌水し、地温を上げ、 萌芽を揃える
	春芽(収穫中)の促進 (貯蔵養分による萌芽)	濃縮酵素液 2リットル灌水。半月ごと。とくに土の排水不良や乾燥で 根腐れ、曲がりや穂先の開く場合は すぐに灌水で 回復します。
	夏秋芽前(親茎育成) の 施肥[礼肥]	春芽の収穫開始後55日頃、親株を6本前後 立茎し、施肥します。 (施用量は状態により加減) 硫安 40~60kg } 冬に投入できなかった場合は 畑のカルシウム 20~40kg } ラクトバチルス 600gも
	夏秋芽(収穫中)の促進	濃縮酵素液 2~5リットル灌水 月1回(特に摘芯後、 茎枯防止) カルテックCa液状 500倍 葉面散布 春芽後半から半月ごと (増補)
	追肥 7~9月、月1回	硫安 20~30kg (「収穫300kgごとN:3kg」より月ごと) 畑のカルシウム 20~30kg (特に9月にはカルシウム多めに)

